

交通問題調査特別委員会

4月7日開催

「交通船事業の課題」と「県の新たな生活航路対策事業」について市の担当者から説明を受けた。

【交通船事業の課題について(企業局)】

平成16年度に約90万人(車両7万7千台)であった利用者が、平成21年度は約70万人(車両2万台)となっている。主な原因は、人口減、クレーラインの無料化実験などによるもの。今後は、第2音戸大橋開通に伴い更なる減少が懸念される。

費用面においては、燃料油の高騰が続いている。昨年10月から半年間で単価が195円値上がりした。単価が1リットル当たり10円値上がりすれば、年間約2千2百万円の負担増となる。

フェリー「ドリームのうみ」については、23年度当初予算で売船を予算化しているが、東日本大



▲ ドリームのうみ

震災の関係で、気仙沼市から貸与等の要請があれば全面的に支援したい。西能美航路の合理化・効率化に伴う実証運航においては、燃料費の高騰により、当初見込んでいたほどの収支改善になっていない。

【県の新たな生活航路対策事業について(企画振興課)】

広島県において今年度、生活航路に対して、新たな支援制度が創設された。架橋で結ばれていても、時間短縮効果に優れた航路が対象となる。本市と本土を結ぶ航路も対象となる予定。今後、県として維持すべき航路を選定し、市と協調し補助を行う。

平成22年度の事業完了状況及び23年度の事業予定の計11か所を視察しました。

各場所を担当者から簡単な説明があり、質疑応答を行いました。視察場所は次のとおり。

- 江田島町地区
 - ①左ヶ本急傾斜地崩壊防止工事
 - ②オリーブ展示ほ場(小用港)
 - ③小用地区開発対策事業(横撫地区、ウシイシ地区)

- 大柿町地区
 - ④オリーブ展示ほ場(柿浦地区)
 - ⑤大柿浄化センター増設工事

- 沖美町地区
 - ⑥農地造成事業(深江釣地区)
 - ⑦八幡川浸水対策工事
 - ⑧耕作放棄地解消事業

- ⑨西の浜新住宅改修工事

※途中、夢来来(ゆめきらい)を見学。

- 能美町地区
 - ⑩温泉井戸改修工事(シーサイド温泉のうみ)
 - ⑪オリーブほ場(坪崎地区)

現地視察後の総括質疑では市営住宅のあり方等

について議論されました。

⑨の改修工事(西の浜新住宅・築34〜36年)では前年は3戸改修で請負工事費が2190万円。1戸当たり約700万円の費用がかかります。今後の老朽化した市営住宅改修事業には相当の費用が必要と見込まれ、市営住宅運営も含めた検討が必要であることを確認しました。



▲ 西の浜新住宅(沖美町)

産業建設常任委員会

5月17日開催

6月定例会 市政を問う 一般質問 4人

防災対策の見直しは

答 地域の実情に即し検討



住岡 淳一 議員

【住岡】 去る3月11日、予想をはるかに超えた東日本大震災により甚大な被害が発生しました。復興には数十年かかるといわれており、今後も長期支援の必要性を強く感じている。我が市の住民が安心して生活できるよう早急に現在の防災対策の見直しをする考えはないか

域の実情に即した地域防災計画の見直しを検討します。

【住岡】 江田島市総合防災マップが配布されたが、その利用は。

【市長】 自治会からの依頼で防災マップの出前講座をしています。

うに考えるか、また自治会の災害時の対応は。

【市長】 無線を通じて、区長さん自治会長さん民生委員さん等を中心に近くの人で早め早めの避難対応を促します。

【住岡】 貸出しフェリーのその後は。

【市長】 ドリームのうみは、現在気仙沼市と大島間を

8便運行しています。全便満員でボランティアの人々、重機や車、物資等の運搬で大きく貢献しています。

【住岡】 今後の取り組みとして太陽光発電、水力、風力発電、潮の干満を利用した発電など自然エネルギーの活用は。

【市長】 太陽光発電は現在支援しています。



▲ 被災地支援の様子